

2 研究の実際 > (2) 活動プログラムの実際 > エ 活動プログラムの実践
 <中学校(学級)> 活動プログラム①怒りについて知る



ペアやグループを意図的に構成して、実践しました！

1 活動プログラムの展開案において、グループでの活動がある場面を確認しました。

【活動プログラム1時目の展開案より】	【活動プログラム2時目の展開案より】
<p>○表にグループのメンバーの名前を書きましょう。気付かせる。</p> <p>○①から順に、自分が何で怒ったか発表して、表を完成させましょう。</p> <p>○表が完成したら、表を見て、互いの「怒りの温度計」を比べて、グループで気付きや感想を交流しましょう。</p> <p>【スライド6】</p> <p>○スタートのときに「怒りの温度計」を友達と気付きや感想を書きましょう。</p>	<p>○次に、例のように、他の場面について、個人でリフレーミングをしてみましょう。</p> <p>○リフレーミングをした考え方を、グループの人と交流しましょう。</p> <p>○リフレーミングをした考え方を、発表してください。</p> <p>【スライド7】</p> <p>きっかけとなる出来事①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気付かなかっただけ ・わざとじゃなかった <p>・好きや嫌い場面から書いてもよいことや、金で書かなくてもよいことを伝える。</p> <p>・個人で記入させた後、グループで話し合わせることで、多様な考え方があることに気付かせる。</p> <p>・できるだけ多くの生徒に全体の場で発表させる。</p>
<p>学習活動3 「怒りの温度計」について考える (3) 「怒りの温度計」についてグループで話し合う</p>	<p>学習活動4 個人で「リフレーミング」した後、グループで交流する</p>

資料1 活動プログラム1、2時目におけるグループ活動の場面

2 「がばいシート」と「Q-U」アンケートを実施しました。

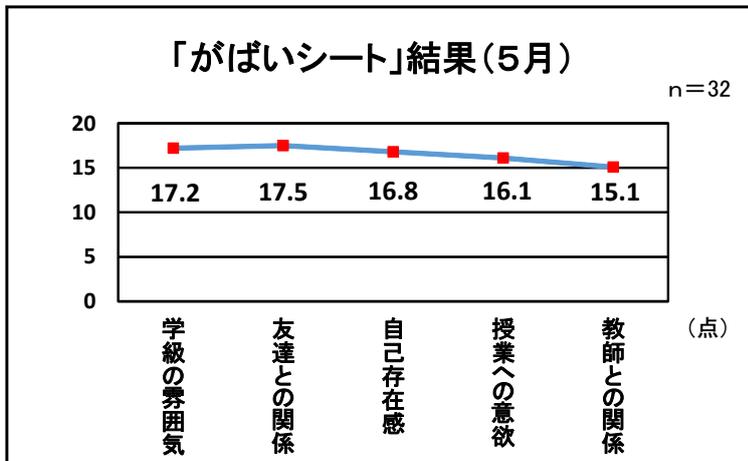


図1 「がばいシート」結果(5月)

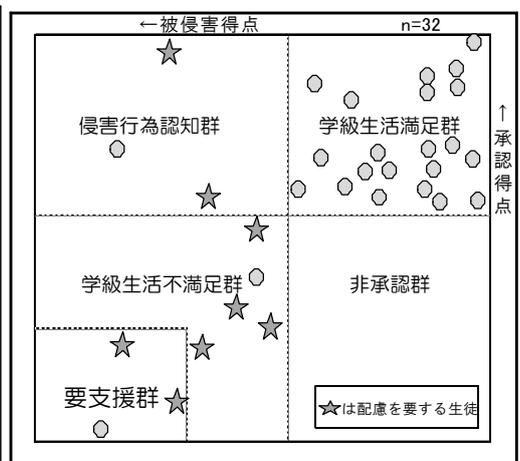


図2 「Q-U」アンケート結果(5月)



3 学習のねらい及び「がばいシート」と「Q-U」アンケートの結果から、以下のようなグルーピングのための視点を挙げました。

- 怒りの理解や怒りへの対処法の学習を通じた自己理解と他者理解を深めるため
 - ・日頃の交流がなく、関わりが少ない生徒同士を組む。
 - ・男女2人ずつの4人のグループを組む。
- グループでの活動が停滞しないようにするため
 - ・友達との関わりが苦手な生徒と、友達に対して穏やかな言動で接することができるなどの気遣いのできる生徒を組む。
 - ・「怒りの温度計」がどのくらいになったかを伝え合う活動とグループでの気付きや感想を交流する活動を行うため、話合いの進行ができる生徒をグループに配置する。



4 「グルーピングのためのアセスメントシート」を活用して、「Q-U」アンケートの結果と担任の観察を基にして総合的にアセスメントし、グルーピングを行いました。

※資料2は、個人情報保護のため、一部データを加工しています。

											【取扱注意】				
グルーピングのためのアセスメントシート (中学校)		「Q-U」アンケートより (〇月〇日実施)									担任等の観察 (〇月〇日現在) ※該当する項目にチェック☑をしてください				グルーピング ※普段、関わりが少ない生徒同士を組み合わせる
		友人との関係			学級との関係			合計得点 (20点以下にチェック)	「怒り」について知る		友達との関わりが苦手である この一週間で、トラブルがあった	友達に対して気遣いができる (◎か○を付ける)	(備考)		
		見られた	この一週間で、イライラした様子が	些細なことで、怒りやすいタイプである	傷付けたりする	怒ったときに、暴れたり、人やモノを	友達との関わりが苦手である		友達に対して気遣いができる	(備考)					
No.	氏名														
1	〇〇 〇〇	5	5	4	5	5	4	5	4	37			◎		B
2	〇〇 〇〇	4	4	1	5	5	5	5	4	33				要支援	D
3	〇〇 〇〇	5	5	5	5	5	5	5	5	40		✓			C
4	〇〇 〇〇	4	4	3	3	3	3	3	3	26					G
5	〇〇 〇〇	5	4	3	5	3	4	4	5	33		✓		不満足	E
6	〇〇 〇〇	5	5	4	5	5	5	5	5	39			◎		A
7	〇〇 〇〇	2	2	3	2	3	2	2	2	18					D
8	〇〇 〇〇	5	5	3	4	5	5	5	4	36			○		A
9	〇〇 〇〇	5	5	3	5	4	4	5	5	36					F
10	〇〇 〇〇	4	4	2	4	3	3	4	2	26		✓		不満足	C

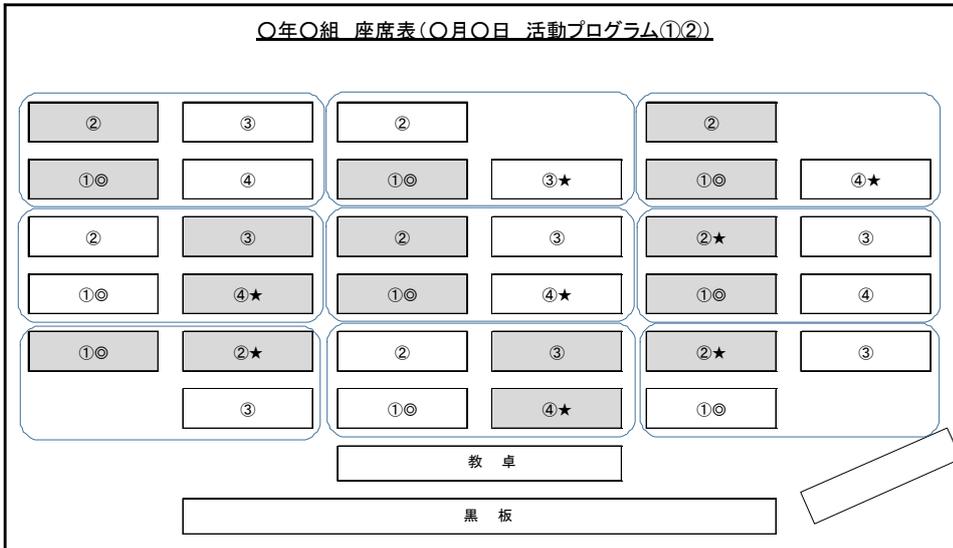
資料2 「グルーピングのためのアセスメントシート」を活用したグルーピングの実際



5 実際の座席は、以下の点に気を付けて配置しました。今回、配慮した生徒は8名です。

※資料3は、個人情報保護のため、一部データを加工しています。

- ・話し合い活動の進行ができる生徒を、各グループに配置する。
- ・グループ活動で机を寄せ合う場面で、男女がバランス良く交わるように座席を配置する。
- ・配慮を要する生徒は、気遣いができる生徒の隣に配置する。



【座席表上の記号】

◎(気遣いができる生徒)

- ・穏やかな言動
- ・友達に対して声を掛けることができる
- ・話し合いの進行ができる

★(配慮を要する生徒)

- ・友達との関わりが苦手
- ・怒りやすい

資料3 座席配置の実際



6 実際の授業は、以下の通りです。

過程	●配慮の実際	・生徒の反応や教師の気付き
【授業前】	<ul style="list-style-type: none"> ●既存の座席を生かし、友達との関わりが苦手な生徒と、友達に対して穏やかな言動で接することができたり、声を掛けることができたりするなど気遣いができる生徒を隣の座席に配置した。 ●話し合い活動を進めることができる生徒を各グループに配置し、グループ活動では進行役とした。 ●授業当日の朝、担任から生徒に主な学習内容とそれに伴った座席配置について伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の反応や教師の気付き ・座席配置については、黒板に座席表を掲示して説明した。学級全体に対して示したため、座席の変更についてはスムーズに進めることができた。
【授業中】	<ul style="list-style-type: none"> ●グループ活動で机を寄せ合う場面で、男女がバランス良く交わるように座席を配置した。特に、配慮した生徒については、元の座席の場合でも机を寄せ合う場合でも、気遣いができる生徒をできる 	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮した生徒は、グループ内の友達から発言するまで待ってもらったり、柔らかい口調で促されたりして、グループでの交流

	<p>だけ隣に配置した。</p> <p>●グループ活動が円滑に進められるようにするため、机を寄せ合う場面で座席位置に番号を付け、①(前頁資料3)の座席の生徒はグループ活動の進行役とした。</p>	<p>ができていた。また、発言後に拍手をもらい、笑顔で活動することができていた。</p> <p>・進行役とグループ活動の発言する順番を決めていたため、活動場面において、すぐに交流を始めることができていた。</p> <div data-bbox="1018 539 1289 757" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>人によって怒りの温度は違うので、一人一人考えながら話していけたらいいと思う。</p> </div> <div data-bbox="1305 645 1439 824" style="text-align: right;">  </div> <p>【配慮した生徒の感想】</p>
<p>【授業後】</p>	<p>●配慮した生徒の様子を観察し、必要に応じて声掛けをした。</p>	<p>・授業後、一緒に活動した友達と会話を交わす場面が見られた。</p> <p>・授業後、友達との関わりの中で、相手のことを考えた話し方をしている生徒の姿が見られた。</p>



【グループ活動の様子】

実践してみたら、このような生徒の姿が見られました！

◆授業後の生徒の反応（「グループ活動アンケート」・「振り返りシート」より）

※配慮を要した生徒は8名（1時目は2名欠席）で、グラフ上に人数を（ ）で示しています。

○グループ活動における生徒の友達に対する意識の変化について

・「グループ活動アンケート」の質問項目に対する生徒の回答の結果

※配慮を要した生徒は8名（1時目は2名欠席）で、グラフ上に人数を（ ）で示しています。

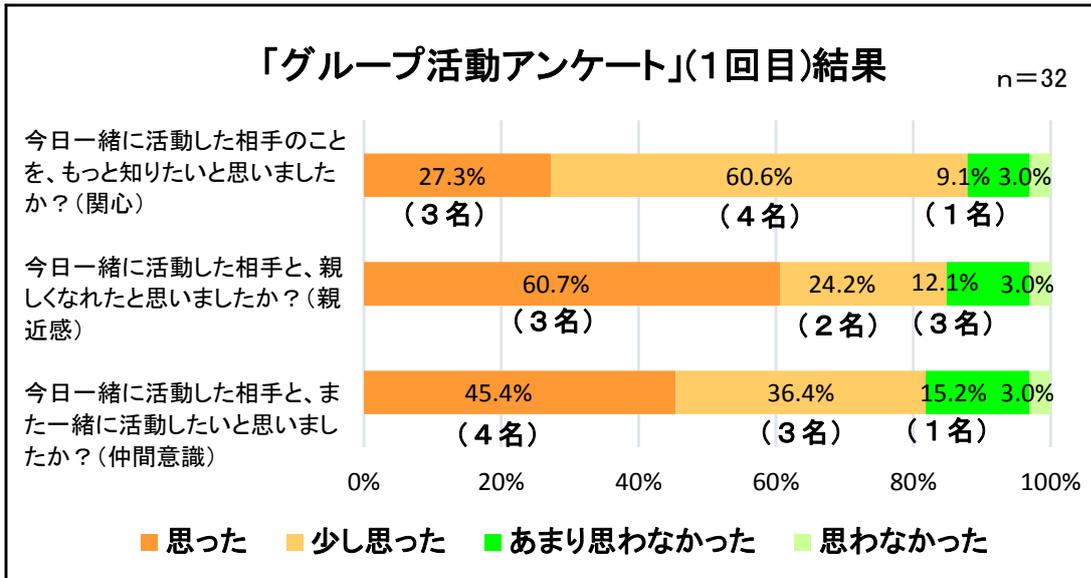


図3 「グループ活動アンケート」(1回目)結果

・配慮した生徒の感想



自分から話すことができなかったので、相手との距離は縮まりませんでした。次の時間からは自分から話したいです。

○グループ活動で取り扱った「怒りについて知る」の学習について

・「振り返りシート」の質問項目に対する生徒の回答の結果

※配慮を要した生徒は8名(1時目は2名欠席)で、グラフ上に人数を()で示しています。

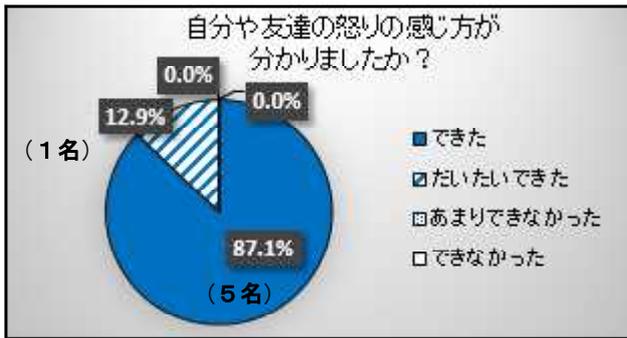


図4 自他の怒りの感じ方の理解について(1時目)

・生徒の感想



グループの人と交流をして、人によって怒りの温度が違うということが分かりました。

自分があまり怒っていないことでも、相手はすごく怒っていることがあると分かりました。相手の気持ちを考えて生活していこうと思いました。



○グループ活動を取り入れた学習への参加状況と学習内容に対する活用意欲について

・「振り返りシート」の質問項目に対する生徒の回答の結果

※配慮を要した生徒は8名(1時目は2名欠席)で、グラフ上に人数を()で示しています。

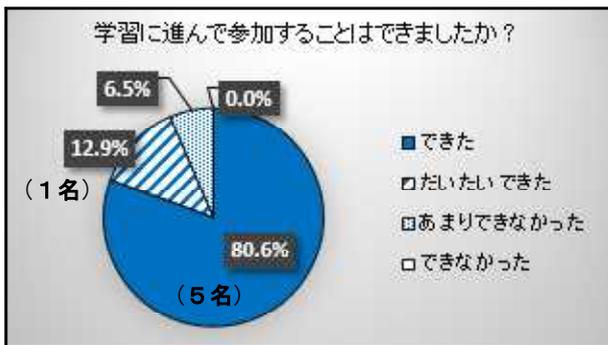


図5 学習への参加状況について(1時目)

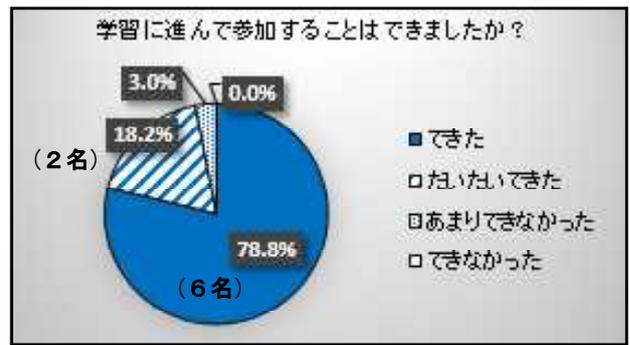


図6 学習への参加状況について(2時目)

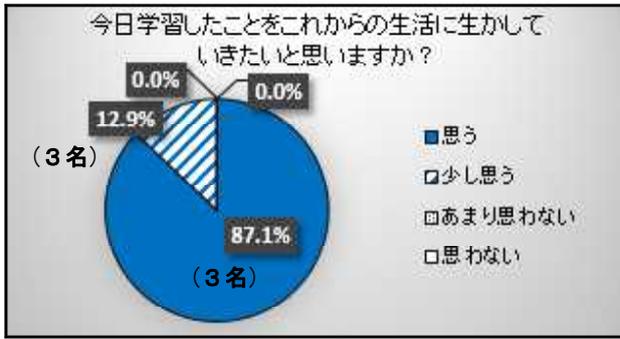


図7 学習内容に対する活用意欲について(1時目)

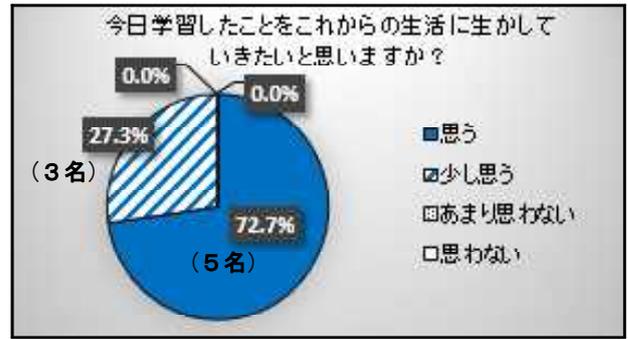


図8 学習内容に対する活用意欲について(2時目)

・生徒の感想



今日の学習で、同じグループの人の怒りの温度を聴いて、同じ温度のときもあれば、違うときもあるのだと気付きました。同じグループの人と交流ができて楽しかったです。

今日の授業で、怒りのコントロールの仕方がよく分かりました。怒りのコントロールは難しいと思っていたけれど、数を数えたり深呼吸をしたりとすぐにできることばかりだったので、これから怒りがこみ上げてきたとき、今日習ったことをやってみたいと思います。



◆授業後の教師の感想

普段あまり話したことの無い友達同士のグループでしたが、グループのリーダーが進行を上手に行い、交流がスムーズにできていました。交流をすることで、「怒り」に対する感じが人それぞれ違うということを知ることができていました。怒りの理解や怒りへの対処法の学習を通して、自己理解や他者理解が深まったようです。配慮した生徒の「グループ活動アンケート」には、「相手のことをもっと知って、うまく付き合っていきたい」という記述が見られました。友達との関わりが苦手だった生徒が、友達に対して関心をもつようになってきました。

